

## 高学年になるほど親子間の会話頻度は減少もメッセージのやりとりは活発化

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

### ◆ポイント◆

- ・高学年になるほど親子間の会話頻度は減少する一方で、メッセージのやりとりは増加。
- ・LINE を毎日 30 分以上利用する中学生は約 6 割。

## 1. 調査結果：

### 1-1. 親子間の会話時間 —高学年になるほど会話時間は減少傾向—

小中学生はどの程度親子間で連絡を取っているのでしょうか。関東 1 都 6 県在住の保護者に親子間で直接顔を合わせた会話時間を伺いました。その結果、会話時間は学年が上がるにともない全体的に減少傾向になり、特に受験期の小学 5～6 年生、中学 2～3 年に減少していました。

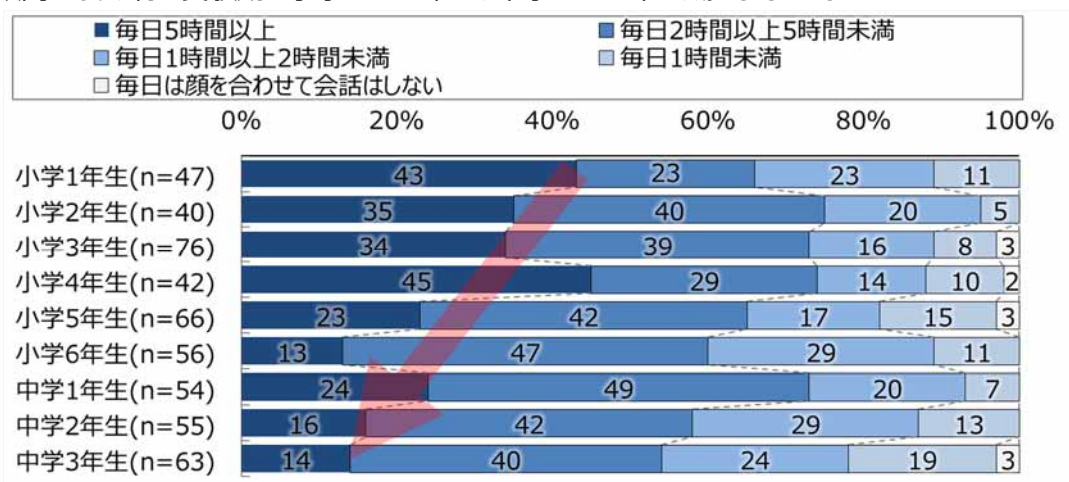


図 1. 親子間の直接顔を合わせた会話時間(単一回答・学年別)  
[調査対象：関東 1 都 6 県在住の小中学生の保護者が回答]

### 1-2. 親子間のメッセージのやりとりの頻度 —学年が上がるにつれてやりとり増—

親子間で会話時間が減るのは対照的に、親子間のメッセージ(LINE やメールなど)のやりとりは学年が上がるにつれて増加し、中学生の過半数が「週に 2、3 回」以上親子間でメッセージのやり取りをしています。

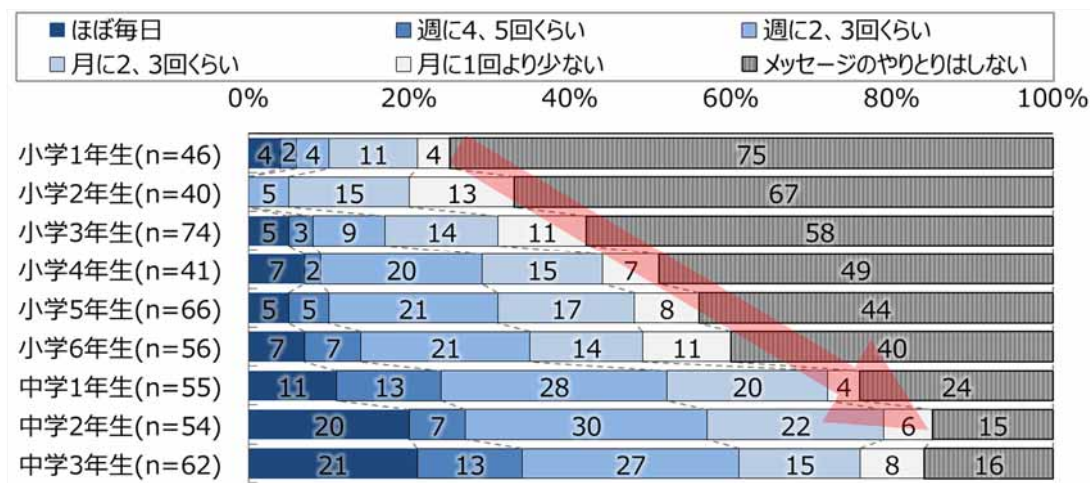


図 2. 親子間のメッセージ(LINE やメールなど)のやりとりの頻度(単一回答・学年別)  
[調査対象：関東 1 都 6 県在住の小中学生の保護者が回答]

### 1-3. LINE の利用時間 —学年が上がるにつれて増加—

メッセージサービスの一つである LINE の利用時間は、中学生になると一気に増加し、毎日 30 分以上利用する子どもは約 6 割となっていました。

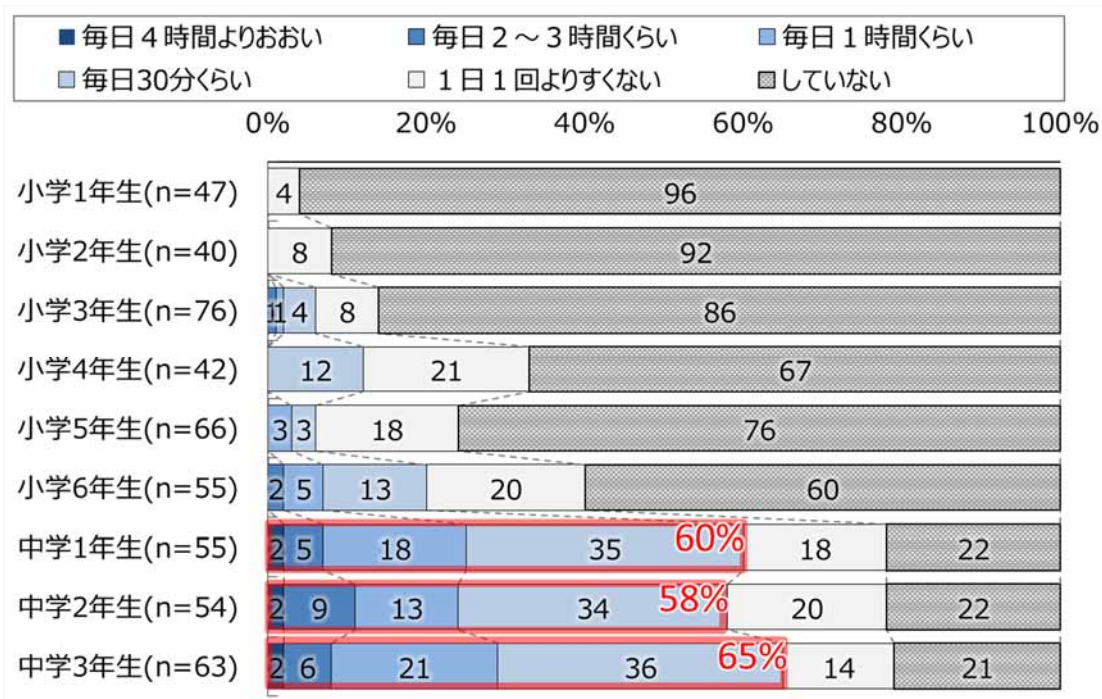


図 3. LINE の利用時間(単一回答・学年別)  
[調査対象：関東 1 都 6 県在住の小中学生が回答]

モバイル社会研究所では、小中学生の方が安心・安全にスマホを利用していただくためのガイドや、親子間のルール作りのポイント、スマホ・ケータイ安全教室のご案内を下記の URL で公開しています。ぜひご家庭・学校でご活用下さい。 <<https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/safety/>>

## 2. 調査概要 —子どものケータイ利用に関する調査 2018—

調査方法	訪問留置調査
調査対象	関東 1 都 6 県に在住する小中学生の子どもとその保護者
有効回答数	500 組の親子
サンプリング	層化二段抽出[クォータサンプリング法(都市規模別性年代)] 7～15 歳の都市規模別人口構成比に応じて、町丁目(50 地点)を比例配分して抽出し、抽出された町丁目において、7～9 歳、10～12 歳、13～15 歳の都市規模別性年代人口構成比に応じて個人を割り当て、該当者をランダムウォーク法で抽出
調査時期	2018 年 9 月

### ■ 問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。  
株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所 [msri-inq-ml@nttdocomo.com](mailto:msri-inq-ml@nttdocomo.com)